

科目名	情報処理試験秋期対策ⅢB						
科目名(英)							
単位数	3単位		時間数	50時間		担当者	志水、打越、西野、久家、村上、柴内、木村(予定)
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験春期対策ⅢB											
科目名(英)												
単位数	1単位		時間数		24時間		担当者		姫野、志水、村上、久保山、藤澤(予定)			
実施年度	2019年度		実施時期		後期		実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年											
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。											
授業形式	講義： ○		演習： ○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。						
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。					確認テストの範囲の復習をしておくこと。					
	6	確認テスト					間違えた問題のやり直しを実施すること。					
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。					確認テストの範囲の復習をしておくこと。					
	11	確認テスト					間違えた問題のやり直しを実施すること。					
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。					確認テストの範囲の復習をしておくこと。					
	16	確認テスト					間違えた問題のやり直しを実施すること。					
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	確認テスト	○		◎								60%
	出席状況・授業態度							◎				40%
履修上の注意												

科目名		システム開発応用技術						
科目名(英)								
単位数	6単位		時間数	90時間		担当者	今村 美穂・村上 香代	
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年		情報システム専攻科 3年						
授業概要		PHPレガシープログラムとPHPLaravelフレームワークを理解し、環境構築から開発、動作確認までを習得する。 開発においては、演習課題の作成を通し、Webフォームの入出力、データベース連携、ファイル入出力、セッション管理機能を実装し、Webアプリケーションの開発を個人で行えるようになる。						
授業形式		講義：△	演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)		言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○	○				PHPの概要、Laravelフレームワークの利用方法が説明できる。	
			○		○		自力でアプリケーションの開発ができる。	
				○	○		作品のプレゼンテーションができる。	
テキスト・教材 参考図書		PHPフレームワーク Laravel入門(秀和システム)						
授業計画		回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
		1-3	Webの仕組み、PHPの概要、開発環境の設定、プログラムの基本					
		4-6	占いアプリの作成、リファクタリング、オブジェクト指向					
		7-9	フォームを利用したプログラム1					
		10-12	フォームを利用したプログラム2、確認テスト				確認テストへ向けてテキストを見直しておくこと	
		13-15	フレームワーク環境設定、Ch2 ルーティングとコントローラ					
		16-18	Ch3 ビューとテンプレート1					
		19-21	Ch3 ビューとテンプレート2					
		22-24	Ch4 リクエスト・レスポンスを補完する1					
		25-27	Ch4 リクエスト・レスポンスを補完する2				提出物の期限に間に合うように作業をすること	
		28-30	Ch5 データベースの利用1					
		31-33	Ch5 データベースの利用2					
		34-36	Ch5 データベースの利用3、確認テスト				確認テストへ向けてテキストを見直しておくこと	
		37-39	自主制作					
		40-42	自主制作					
		43-45	自主制作、発表				提出物の期限に間に合うように作業をすること	
		評価方法		(1)確認テストを2回実施する。(2)課題を数回実施する。(3)個人作品を作成し作品のプレゼンテーションを行う。 (4)出席状況と授業態度を考慮する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				
	言語情報			知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
確認テスト(2回実施)	◎			◎				30%
課題提出				◎		○		30%
作品・発表				○	◎	○		30%
出席状況・授業態度						◎		10%
履修上の注意		出席が30回(全45回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	卒業研究B										
科目名(英)											
単位数	18単位			時間数	270時間			担当者	姫野マリ・西野直幸		
実施年度	2019年度			実施時期	後期			実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 3年										
授業概要	これまでに習得した知識、技術を総合的に用い、主体的にシステムの構築を行う。 チームで開発におけるスケジュール調整やメンバーとのコミュニケーションをとりながら進めることの重要性を学ぶ。 構築したシステムのドキュメンテーションや効果的なプレゼンテーションの技術について学ぶ。										
授業形式	講義:			演習:	○	実習:		実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
		○		○		チームで企画したアプリケーションのシステム設計・開発・テストができる。					
		○		○		アプリケーションについての各種ドキュメント作成ができる。					
		○		○		完成したアプリケーションや開発プロセスについてチーム及び個人のプレゼンテーションができる。					
テキスト・教材 参考図書	なし										
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示		
	1-9	卒業研究概要説明、企画書振り返り							前期に作成した企画書を見直しておくこと		
	10-18	外部設計書作成1									
	19-27	外部設計書作成2							期限内に外部設計書を提出すること		
	28-36	内部設計書作成1									
	37-45	内部設計書作成2、設計レビュー(企業連携)							期限内に内部設計書を提出すること		
	46-54	プログラミング1									
	55-63	プログラミング2									
	64-72	プログラミング3									
	73-81	プログラミング4									
	82-90	プログラミング5									
	91-99	プログラミング6									
	100-108	プログラミング7、レビュー(企業連携)									
	109-117	テスト1									
	117-126	テスト2							期限内にテスト報告書を提出すること		
	126-135	完成検査、最終プレゼンテーション、発表レビュー(企業連携)							期限内に最終提出成果物を提出すること		
評価方法	(1)チーム作品の完成品テストを行う。(2)段階的な成果物提出を実施する。(3)個人の成果プレゼンテーションを行う。 (4)授業態度と出席状況を考慮する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は R(60点以上)・D(59点以下)とする										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	チーム作品完成度			◎				○			30%
	提出成果物			◎				○			30%
	個人発表			○				◎			30%
	出席状況・授業態度							◎			10%
履修上の注意	出席が90回(全135回)に満たない場合は単位認定できない。										

科目名	提案実践演習						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	織田 拓郎
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	情報システム専攻科 3年						
授業概要	今やIT業界では提案型システム開発が主流となっている。提案型システム開発で重要となるのは顧客ニーズの把握、分析である。顧客からニーズを聞き取るインタビュー型コミュニケーションスキルと、システムを図式化して提案書としてまとめる能力は重要である。本科目では提案型システム開発の必要性やインタビュー型コミュニケーションの基本を学ぶとともに、提案書で必要となる業務フロー図やシステム構成図の作成技法を演習を通して習得する。						
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				システム提案の必要性を理解し、説明できる。	
		○				システム提案に必要なコミュニケーションができる。	
		○				提案書に必要な業務フロー図、システム構成図を作成できる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント(授業レジュメ及び演習)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション システム開発手順の復習 提案型／問題解決型システム開発					
	2	システム提案書の全体像 提案立案のステップ					
	3	顧客の要望					
	4	顧客信頼と顧客理解 顧客情報の収集方法(1)					
	5	顧客情報の収集方法(2)					
	6	顧客情報分析の基本 ～SWOT分析					
	7	提案書におけるシステムの見せ方 システム概要の趣旨と作成のポイント					
	8	システム概要図の作成演習				作成物が完成しなければ、提出期限までに作成すること	
	9	システム構成図の趣旨と作成のポイント					
	10	業務フロー図とは					
	11	導入前業務フロー図					
	12	導入前業務フロー図作成演習				作成物が完成しなければ、提出期限までに作成すること	
	13	導入後業務フロー図					
	14	導入後業務フロー図作成演習				作成物が完成しなければ、提出期限までに作成すること	
	15	Webシステム時代のシステム提案 まとめ					
評価方法	(1)期末テストを実施する(2)提出課題を評価する。(3)授業態度および出席回数を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	期末テスト		◎				60%
	提出課題		◎				20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が10回(全15回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	英語コミュニケーション										
科目名(英)											
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者	田中 雅彦		
実施年度	2019年度			実施時期	後期			実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 3年										
授業概要	IT英単語確認テストにて、語彙力の底上げをはかり、基礎文法を復習しながら、基本的なフレーズを身に付ける。また、日常的な場面における英語コミュニケーションを練習し、今後の学習につなげていく。										
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○					IT業界で使用される基本的な英語の語彙を使用できる。					
		○				英語の基礎文法を学び、いくつかの日常的な場面で使用できる。					
テキスト・教材 参考図書	TOEICテスト書き込みノート / プリント										
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示			
	1	オリエンテーション、英語コミュニケーションゲーム②「自己紹介」									
	2	動詞の変形 IT英単語									
	3	未来 IT英単語						IT英語の復習をしておくこと			
	4	時制のルール IT英単語						IT英語の復習をしておくこと			
	5	分詞 IT英単語						IT英語の復習をしておくこと			
	6	関係代名詞① IT英単語						IT英語の復習をしておくこと			
	7	関係代名詞② IT英単語						IT英語の復習をしておくこと			
	8	修飾表現 IT英単語						IT英語の復習をしておくこと			
	9	比較(原級、比較級、最上級) IT英単語						IT英語の復習をしておくこと			
	10	比較(復習)、接続詞									
	11	接続詞、前置詞									
	12	英語コミュニケーションゲーム②「前置詞を使って道をきく」									
	13	応用英語「海外に行く際の英語を学ぶ」①									
	14	応用英語「海外に行く際の英語を学ぶ」②									
	15	まとめ									
評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)確認テストを数回実施する。(3)出席状況と授業態度を考慮する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲		その他	評価割合		
	定期試験	○		◎					70%		
	確認テスト	○							10%		
	出席状況・授業態度					◎			20%		
履修上の注意	毎回の課題は終わらせてから出席をすること。 出席が10回(全15回)に満たない場合は単位認定できない。										

科目名	ビジネスマナー									
科目名(英)										
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者	逢坂 美千代	
実施年度	2019年度			実施時期	後期			実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	情報システム専攻科 3年									
授業概要	ビジネスマナーの基本を習得し、実践力を具体的素材をタイムリーなケースワークで学ぶ									
授業形式	講義: △		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		○				ビジネスマナーの本質を理解し、説明できる。				
		○				ビジネスにおける口答コミュニケーションが正しくできる。				
		○				ビジネスにおける文書コミュニケーションが正しくできる。				
		○				ビジネスにおける対人コミュニケーションが正しくできる。				
テキスト・教材 参考図書	図解まるわかり ビジネスマナーの基本(新星出版社)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	ビジネスマナーとは					1分程度の自己紹介を準備しておくこと			
	2	基本マナー:立ち居振る舞い								
	3	基本マナー:表情・身だしなみ/社会人としての心構え								
	4	職場マナー・仕事の仕方								
	5	言葉遣い・話し方①								
	6	言葉遣い・話し方②								
	7	電話対応①								
	8	電話対応②								
	9	FAX・メール・封書の有効活用					作成物が完成しなければ、提出期限までに作成すること			
	10	接客と訪問マナー①								
	11	接客と訪問マナー②								
	12	ビジネス文書①					作成物が完成しなければ、提出期限までに作成すること			
	13	ビジネス文書②					作成物が完成しなければ、提出期限までに作成すること			
	14	冠婚葬祭マナー								
	15	総論・振り返り								
評価方法	(1)期末テストを実施する(2)授業態度を評価する。(3)出席回数を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	期末テスト			◎				80%		
	授業態度					◎		10%		
	出席状況					◎		10%		
履修上の注意	出席が10回(全15回)に満たない場合は単位認定できない。									